

## 来てくれた方を 楽しませたい

「今まで以上に地域に浸透し、毎年楽しみにしていただけるようなアートフェスタにするため、できることは自分たちでやろうと考え、実行委員会を立ち上げました」と話す吉川未来さん。

市民に広く一般公開され、地域の方も多数訪れている同フェスタは、10の文化系部活動の部長や局長など17人が中心となり準備を進め、さまざまな企画を生み出しました。

「公演の合間の時間も来場者に楽しく過ごしていただくため、生徒会による学校紹介や、器楽同好会のフルートアンサンブルを披露するなど、趣向を凝らしました。

また、これまでは部活動ごとの発表にとどまっていたのですが、異なる部活動同士のつながりが生まれるよう、演劇部の劇中に合唱部と器楽同好会による演奏や英語部と放送局によるナレーションなどを入れて、部活動同士のコラボレーションを実現しました」

昨年よりも多くの方が来場し、盛況だった同フェスタ。

「地域の方から、『楽しかったので来年もぜひ続けてほしい』と



▲部活動同士のつながりが生まれた合同ステージ

いう言葉をいただいたときはとてもうれしかったです」と、吉川さんは振り返ります。

## 実行委員の経験は 宝物です

さまざまな人と関わり、アートフェスタの企画運営をした吉川さん。実行委員長としての経験を通じて大切な仲間ができました。

「さまざまな人の考え方を聞くことで視野が広がりましたし、何より、部活動の枠を越えて、1つの目標に向かって一緒に泣いたり笑ったりできる仲間ができました。この経験は私にとって大切な宝物です。

来年のアートフェスタも、たくさんの方に来てほしいと思います」と、笑顔で話す吉川さん。

貴重な経験を胸に、未来へと一歩踏み出します。



KIRARI

## よし かわ み く 吉川未来さん(片倉町)

3月22日(日)、市民会館で『あけびアートフェスタ』（登別明日中等教育学校主催）が行われました。

登別明日中等教育学校の文化系部活動の学習成果を発表する催しとして3回目の開催を迎えた『あけびアートフェスタ』は、ことし初めて、生徒が主体となって実行委員会を立ち上げ、事前の準備や舞台発表の内容決定、当日の運営などを行いました。

今回は、同実行委員会の委員長を務めた吉川未来さんに、あけびアートフェスタに込めた思いなどを聞きました。

## あけびアートフェスタを地域に浸透した 行事にしたい



平成9年、根室市生まれ。17歳。

幌別西小学校を卒業後、北海道登別明日中等教育学校に入学し、現在、高校3年生にあたる6回生。合唱部に所属し、昨年10月からは部長を務め、まとめ役として活動する。